

国語科学習指導案

指導者 田中 稔子

1. 日時 平成 16 年 10 月 12 日 (火) 5 校時
2. 学年・組 2 年 2 組 3 9 名
3. 教材名 お手紙
4. 研究主題との関連

言葉のイメージを広げ、伝え合う力を育て、高める学習指導のあり方

～朗読劇を通して、聞く力・表現する力を育てる～

(1) つけたい力

- ・読むという行為を通して、作品のイメージを膨らませる。
- ・読み手と作品のイメージを共有して聞き取ることができる。
- ・読むことを楽しむ力を育てる。
- ・作品を通して、友だちを思いやる気持ちを育てる。

5. 単元の指導に当たって

(1) 児童観

男子 19 名・女子 20 名の学級である。2 クラスのせいも悪くも学級を越えた児童の交流が深い。授業中の発表は、活発だが、全員が発表できるところには至っていない。朝の会の日直の「お話タイム」では、どの子もみんなの前で話ができるようになったが、声の小さい児童も見られる。また、年度当初から、話を聞くことがなかなかできない児童がいるので、日頃から、話している人に体を向け、しっかりと見て聞くことを学年目標に掲げ、日々取り組んできた。少しずつ話が聞けるようになってきたが、まだ全体に定着していない。作文においては、自分の思いを豊かに表現できる子が少ないので、朝の読書や図書の日などを使って、多くの本に触れるようにしている。さらに、大東市立図書館より本を借りて、学年で回して読んでいる。かなり、読書量が増えている。

(2) 教材観

教材文「お手紙」は、ほとんどがかえるくんとがまくんの会話文で物語が進行している。そして、その会話文を通して、かえるくんとがまくんの心の触れ合いが、ほのぼのと伝わってくる作品である。今回、朗読劇を取り入れることによって、子ども達一人ひとりが物語のイメージを膨らませることができるのではないかと考えた。

朗読劇は、いろいろな文学作品が対象となるが、取り組みやすい作品の要素として、

- 興味を覚える登場人物

- 心理的・身体的に動きのある登場人物
- 豊かな言語
- 作品として独立したもの
- はっきりと起承転結のあるもの

などが挙げられる。本教材にもあてはまるものが多く、また、動作を加えたり、物音や様子を声や楽器などの道具を使ったりしながら表現することにより、より一層登場人物の気持ちに迫れるのではないかと考えた。

(3) 指導観

子ども達は、動物や生き物が出てくるお話が大好きである。また、これまでの学習の「ふきのとう」や「スイミー」などにおいても、役を決めて音読しようと持ちかけると、張り切って読む姿が見られた。しかし、みんなの前で声を出すことに抵抗を感じ、小さい声になりがちな児童もいる。今回、朗読劇を取り入れることにより、どの子も声を出すことを楽しいと感じられるようにしたい。また、聞く側も、読み手のイメージを想像しながら最後までしっかりと聞けるようにしたい。また、動作化を取り入れたり、自由に音で様子を表現したりしながら、登場人物への共感を深められることにつなげていきたい。

6. 単元の目標

- (1) 【読む力】・挿絵も参考にして、場面の様子やがまくん、かえるくんの心情について、想像を広げながら読む。
 - ・がまくんやかえるくんの気持ちがよく表れるように、語や文のまとまり・声の大きさなどに注意して読む。
 - ・「お手紙」を読んで、自分なりの感想をもつとともに、かえるくんとがまくんのほかのお話に興味を持ち、それらのお話を楽しんで読む。

- (2) 【書く力】・伝えたいことを考えて、手紙を書く。

7. 指導計画 (全 14 時間)

- お話を読んで、感想を發表し合う。また、朗読劇のビデオを見て、これに取り組んで紅白対抗「朗読劇」をするというめあてをもつ。 (1 時間)
- お話の流れを確かめながら、場面の様子や、がまくんとかえるくんの心情の変化を読み取る。朗読劇の手法を取り入れて、グループで練習する。 (7 時間)
- 紅白対抗「朗読劇」をする。 (2 時間) 2 / 2
- 発表会をする。 (1 時間)
- 発表会のよかったところについて、友達に手紙を書く。 (1 時間)
- かえるくんとがまくんのほかのお話を読む。 (2 時間)

8. 本時の学習

(1) 目標

- ・場面を想像しながら工夫し、楽しみがら発表することができる。
- ・自分たちのがんばったところを聞き手に伝えることができる。
- ・友だちの発表をしっかりと聞き、よかったところを見つけ、伝えることができる。

(2) 本時の展開 (2 / 3) ○…場の構成 …評価 …支援

	<p>【聞き手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・声の大きさや間のとりかたはどうだったか。 ・場に合った表情や動作ができていたか。 ・物音や様子を工夫して表現していたか。 ・どちらがよかったか審査する。 	<p>○「よかったよカード」に記入させる。</p> <p>カードの記入が不十分な児童には、その場で適切に支援する。</p> <p>聞き手…友だちのよかったところを伝えることができたか。</p>
交流と振り返り	<p>紅白対抗「朗読劇」を振り返って、感想を話し合う。</p> <p>次時には、場面をつなげて、家のひとに発表することを知らせる。</p>	<p>それぞれの結果とよかったことを板書する。</p>

	児童の活動と意識	指導者の役割
課題設定	<p>紅白対抗「朗読劇」をする。</p> <p>本時のめあてを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>場面を思い浮かべながらグループで協力し、工夫して読もう。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>友だちの発表のよかったところを見つけよう。</p> </div>	<p>○めあてを確認させる。</p> <p>○今日の流れを伝える。</p> <p>○「よかったよカード」を配布し、記入の仕方を確認する。</p>
課題追求	<p>紅白対抗「朗読劇」をする。</p> <p>【読み手】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割分担や練習でがんばったところをみんなに伝える。 ・読み方を工夫する。 声の大きさや間の取り方 表情や動作 物音や様子の表現 	<p>音響など、必要なものがあれば用意する。</p> <p>読み手…めあてに沿って発表できているか。</p> <p>聞き手…友だちのよいところに気付きながら聞くことができているか。</p>